

(様式)

議会運営委員会行政視察報告書

委員会名	議会運営委員会	委員名	江川 あや
視察地	北海道登別市		
調査事項	オンライン議会について		
視察年月日	2024年10月16日（水）		
視察内容	●調査内容： ▽マニフェスト大賞を受賞したりと議会改革度がトップの登別市議会の議会改革は、PDCAサイクルで続けてきた所がある。 人口 44000 人の人口構造を見ると、室蘭市のベッタタウンとして栄えてきたという町の歴史があり、労働者の声が強く、結果主義、前に進めたいという意識のある議員が多い傾向がある。 例えば、議長公約についても休憩中ではなく議会中継の中で議長選挙が行われる。19 人、会派間のやり取りも当然あるが、市民が見る中で行われるなど透明性が担保されている。その後、議長から公約で掲げたことを議運に諮問し、議運が答申していくという改革の流れ。 委員会の委員長も重点活動計画書を策定（公約のようなもの？）し、サポーター市民の意見を聞きながら、政策提言書、条例を委員会としてまとめていく。 議会基本条例に関しては、チェックシートから自己評価等で行っている。 能動的に動いていく仕組みがあったとのことであった。 ▽開かれた議会 制度を作ることを目的ではなく、成果をどう捉えるかということ、仕組みを使いこなすということを目的にしている。 まずは IT 化推進から始まり、下記の様な時系列となっている。 H12 特別委員会～ ※HP 5 万 6 千円 現在では、広報⇒情報公開⇒情報共有 に移ってきている。 委員会資料が 3 日前までに提出されることにより住民の意見が聞きやすくなる。 グループウェア（サイボウズ Office）民間企業向けのサービスを利用している。 ▽オンライン委員会に関して 時系列で議会改革の諮問事項としては、 R2 脱ハンコ。 R3 オンライン委員会、事務局職員提案制度導入 R4 政務活動費検査会設立 政治倫理条例へのハラスメント禁止規定 基本条例・会議規則への「合理的配慮」規程 議会図書室へのベビーサークル・乳幼児図書配置		

R5 議会資料の QR コード化⇒議会事務局提案。傍聴者からの意見を反映した。

「議論する議会」へ向けた諮問で、議会・議員活動、委員会に関して考えた。
「特例」として、どうしても出られない、議長や委員長からみて「社会通念上やむを得ない場合」に使える制度で、委員会条例で定めて「出席」としている。
本会議は法律なので、まだ「出席」とはならない。
住民自治により近く議会議論が深まるための仕組みとして、いれている。
何のためにやるのか、が必要なので「育児、介護」を入れた。
指名発言なのでオンラインとの相性は良く、あくまで特例なので常ではない。
導入設備、経費は、会議カメラ 7500 円 集音マイク 38500 円、ZOOM 4 万円。
途切れた場合は少し待って、確認して、状況に応じて行えば良く、配信対応は写しているのを配信している。

●所見

議会改革に関しての先進事例として、財政的にも多くはかけずにやれることをやっている印象を受けた。原則の部分として、道具をどのように使うか、住民の意見反映をどうするかという意識を共有する必要があると感じた。
オンライン議会に関しては、制度等よりも経費に関してが課題と解り、それも柔軟な発想でできることも理解できた。本会議での議決に関してはまだ議会規則の関連があり、法的な考え方が進まなければできないが、まずは出来る所から取り入れていくと良いと思った。

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。